

2014 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	経済研究所
評価基準 8	社会連携・社会貢献
点検・評価項目(2)	8-2 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動
	学外組織との連携協力による教育研究の推進
	地域交流・国際交流事業への積極的参加
点検・評価項目(3)	8-3 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 点検・評価

【点検・評価項目ごとの現状説明】

8-2	① 主として経済学に関する理論・実証・歴史・政策などの諸研究及び関連諸分野研究成果を掲載した「経済研究」を発行し、学内の関係組織に配布するとともに、学外の関係研究機関等に送付する。 ② 「研究プロジェクト活動報告」その他研究所の活動報告を掲載した「経済研究所報」を発行し、学内の関係組織に配布するとともに、学外の関係研究機関等に送付する。 ③ 研究員の研究成果を発表するとともに、学外からゲスト討論者を招いての討論会を実施する「経済シンポジウム」を開催し、それを学内外の学生及び研究者、さらには、一般の方にも公開して社会に還元する。 ④ 以上のうち、特に「経済シンポジウム」については、テーマに応じ、学外研究機関や海外の研究機関との連携を図り、学外及び海外の研究者を招へいし、討議・研究の水準の向上を図る。
8-3	運営委員会で検証している。

【効果が上がっている事項】

8-2	① 「経済研究」及び「経済研究所報」は、毎年度末に刊行している。 ② 「経済シンポジウム」「経済研究所セミナー」「ランチタイム・セミナー」「経済研究所研究会」は、大学院生や他学科にも公開し聴講を呼び掛けている。
8-3	「経済シンポジウム」では、参加者からアンケートをとり、経済研究所の社会連携・社会貢献の適切性に関する検証を試みた。

【改善すべき事項】

8-2	「経済シンポジウム」は一般公開しているものの、参加者が少ないのが現状である。
8-3	「経済シンポジウム」については、その社会連携・貢献の度合いや適切性について、十分検証するところまでは行けなかった。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

「研究所報」「経済研究」
--------------

《指標データ》

なし

III 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	8-2 シンポジウムやランチタイム・セミナーの質の向上を図り、特にランチタイム・セミナーについては、少なくともディスカッションペーパーに結実する水準の研究報告を年 10 回程度行う。	シンポジウムアンケート					
14 年度 目標	8-2 ディスカッションペーパー本文を当研究所ホームページに掲載する。	当研究所ホームページが適切に更新されている。	A				